



AEFA アジア教育友好協会
Asian Education and Friendship Association

フレンド会報35号

〒102-0074
東京都千代田区九段南2-3-22
アーバンセカンドビル3F
TEL:03-6265-6490
FAX:03-6265-6491



AEFAの3層構造理念

2023年6月26日 発行



一人ひとりの温かい気持ちをつなぐ

——会長・理事長が語る

現地で、いま起きていること

キムソン分校と大阪府立柏原東高校、交流の物語

一人ひとりの
温かい気持ちを
つなぐ

これまでの活動に、プラスαを——会長・理事長が語る

talk session

AEFA 理事長

亀井 善太郎 × 谷川 洋

AEFA 会長・創設者

AEFA理事長のバトンが谷川から亀井へと渡されて三カ月が経ちました。コロナ禍が落ち着いたこともあって、支援者訪問や支援地訪問など谷川・亀井の二人三脚の活動が本格始動しています。活動を通じて二人が経験・発見したことや、これからのAEFAの展望について語ってもらいました。



——約三年ぶりにアジアの現場訪問が再開しています。

谷川 昨年末、久しぶりにベトナムの現地に行って、NGOのメンバーも含めて現地の皆さんはやはり直接会って、話がしたかったんだ！と感じましたね。オンラインでできることもありますが、現場で話をするからこそ子どもたちの心の声、現地の人々の本音を聞くことができます。また、支援者さんの喜びの声を現地の皆さんに伝え、その場で気持ちを分かち合うことができる。これは嬉しいことでした。

亀井 現地の変化も実感しました。昨年末に谷川さんと一緒にベトナム・ビンフー小学校贈呈式に参加したのですが、そのときに印象的だったのが新しい校舎の壁に子どもたちが描いた絵です。子どもたちが自分の思いをそのまま表現したような、とても素敵な絵でした。

谷川 昔は子どもたちが先生の絵をお手本にして描くのが普通だったね。だから、国旗とか校舎の絵とか、どの子の絵もみんな同じような絵になる。今は全然違う。贈呈式でも、かつては大人ばかりがしゃべっていたものだけど、いつからか子どもたちが自分の気持ち、喜びや希望を語るようになった。ビンフーの贈呈式での子どもたちの挨拶も、大人があらかじめ用意した言葉ではなく、子どもたちが自分の言葉で語ってくれていると感じまし

た。ああ、一歩進んだな、と感慨深かったです。また、そうした姿を、日本から来た、ご寄付いただいた皆さんが喜んでくださっていたのもうれしかったですね。

亀井 子どもの行動を型にはめるというやり方からの変化ですね。それぞれの子どもたちが自分の気持ちを表現できるようになり、それが子どもたちの絵や言葉や行動に表れます。さらに、日本から来た人たちが喜んでくれる、素晴らしいと賞賛してくれる。それによって、現地の人たちがこの方向性でいいんだと自信をもち、先生やNGOメンバーの姿勢も変わっていく。AEFAの活動を信頼してくれて、ますます活動が深まっていく。そういった繋がり循環を実現していくことや、現地の変化の意味や価値を日本の皆さんに伝えていくことが、AEFAの重要な役割です。

——亀井さんは今年3月にベトナムのキムソンカシトン校と支援者との交流会に参加されています。

亀井 キムソンカシトンの交流会でも、大人たちによる事前の仕込みを感じない、現地の子どもの素直な声を聞くことができたと思います。子どもたちの小さな声、内面、感性が日本を訪れた皆さんたちの心に響き、その喜びが現地の人々の心に響くという、貴重な体験をさせていただきました。

谷川 少数民族の子どもたちは言語の問題があって自信が無

いことが多いし、人前で話したりする機会もほとんどない。そういう子どもたちが、自分の意見を表現したり他者と共有したりする場を得ることで心を開いていくんだよね。支援してあげるという上から目線ではなく、広く温かい心で、子どもたち一人ひとりと向き合おうとくださるのが本当にありがたいです。

亀井 学校を作るのは通過点ですね。「かわいそうな子どもたちのために学校を作ってあげる」のではなく、子どもたちや現地のの人々と一緒に、学校のその先の物語を作っているのだと思います。その物語の一部となる喜びを分かち合う仲間を、もっともっと増やしていきたいですね。

——コロナ禍による諸制限が緩和され、往来の自由は元に戻りつつある一方で、国際情勢の緊張度は高まり、インフレの影響は深刻さを増しています。

谷川 このような状況でますます苦しくなるのが、AEFAが長年関わってきた地域の少数民族です。国の中で貧富の差が拡大しています。

亀井 その貧富の差を縮めていくのが学校であり教育ですね。これまで以上にAEFAのプロジェクトの重要性を感じています。

谷川 このような困難な状況下でも、学校を作ろう!、教育の質を上げよう!と立ち上がる現地の人たちがいます。一緒にやろうよ!一緒に現状を変えていこう!という気持ちが一層強くなりました。

——ベトナムにおいては経済発展も著しく、学校建設などの支援は必要ないのではないか?という声もありますが。

亀井 ベトナムには54の民族がいて、特にAEFAプロジェクトが入っている山岳地域、少数民族の方が多く地域は、経済的に困難な家庭が多いです。また、近年は、干ばつや豪雨といった気候変動の影響は現地の主産業である農業に大きな打撃を与え、人身売買の被害も増えています。そういった地域においてまず学校建設で基本的な学習環境が整備され、さらに図書館と読書啓もう活動(レインボーライブラリー)をはじめとする、教育の質を高める様々なプロジェクトを推進しています。

谷川 子どもたちの心に寄り添う活動も重要です。たとえば、両親

親が出稼ぎで不在だったりコロナ禍で学校に行けなかったりした子どもが孤独を抱え、気持ちが不安定になったり怒りっぽくなったりしています。学校という場が子どもの横のつながりを提供できるのではないかと。それぞれの村の状況に合わせた支援ができるのではないかと思います。

——ベトナム以外ではどのような計画がありますか。

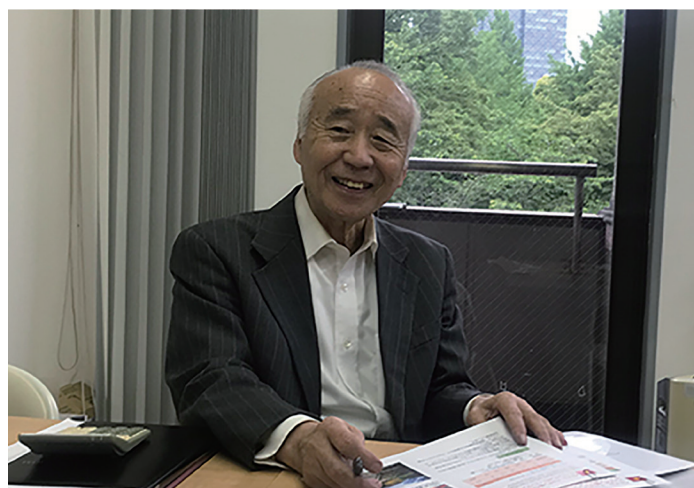
亀井 ラオスのクムーンやナサイプーカム、ブオンナム、ララ、マイバンマセル校では牛銀行(※)を実施しています。更に、先生方から養魚池をやりたいというアイデアも出ています。

谷川 スリランカでは、経済危機でストップしていた西部と南部における建設プロジェクトが今年の初めから動き始め、工事が順調に進んでいます。夏頃の竣工を予定していて、現地の子どもたちがずっと待っていた新しい学校をおくることができ、ほっとしています。

亀井 ラオスでも、少数民族の子どもたちのリーダーシップを育てる教育プロジェクトが様々なかたちで進んでいます。図書館プログラム(キャンドルライツライブラリー)は中学生を対象にしたもので、生徒たちの自主性を重んじた運営をすすめています。そうした中から、本への親しみや自分の居場所を見つけたといった声が出てきてうれしいかぎりです。また、子どもたちを通じた家庭への栄養教育も進めるリルシェフ、奨学金など、さらに教育支援プロジェクトを広げていきたいですね。

谷川 スリランカの紅茶プランテーションの中の学校は十分な学習環境がなく、教育が行き届かないところがあります。農園(エステート)労働者の生活環境はイギリス統治下だった19世紀からほぼ変わらないまま、取り残されているといわれます。世襲制の労働が続けられ、農園内で生まれ育つ子どもたちに将来の選択肢がほぼないことが問題視されています。また、古い校舎の建替えや増設だけでなく、リノベーションすれば新校舎同様に生まれ変わる学校も数多くあります。

※牛銀行:牛を育て、売った収入で得た現金で、スポーツ用品や教材など学校に必要なものを買ったり、先生の給与を補ったりしています。



——子どもたちが安心して学べる環境を整えるために、私たちにできることがたくさんありそうですね。

谷川 はい、まだまだやるがあります。理事長の座を退いたことで、会員や支援者の方から”谷川は元気なの？大丈夫か？”とご心配の声もいただきましたが、私は元気にやっております！

亀井 谷川さんはますますお元気です。これからも元気で頑張っていたかなくと僕たちも困ります(笑)。

谷川 まだまだ頑張ります！ただ、これからは皆さんでAEFAに新しい”プラスα”を追加してほしい、というのが私の願いです。

亀井 AEFAの理念や価値観は谷川さんがAEFAを創立された時と何ら変わっていないし、これからも変わらないと思います。これまで大切にしてきた「子ども中心・教育が原点」の思いはそのままに、社会の変化、現地の課題に合わせた手法の変化や、パートナーの拡大、そういったプラスになるだろうと思います。その一つとして、この夏からマンスリーサポーター制度がスタートします。

谷川 AEFAのプロジェクトではみんなが主人公なんだよね。新しく仲間になる方もそれを感じてくだされば嬉しいですね。

亀井 まさに。AEFAが考えるパートナーシップとは、”子どもたちに寄り添い、子どもたちの未来の可能性を広げていきたい”という思いでつながる平等な仲間であり、プロジェクトに関わるすべての人が主人公です。それぞれの温かい気持ちに対し温かい気持ちで返る人と人とのつながり、子どもの気持ちと支援者の気持ちが響き合う活動、それを大事にしていきたいですね。



建設プロジェクトの「その先」にある課題を見据えた活動

「AEFAマンスリーサポーター」の募集を始めます

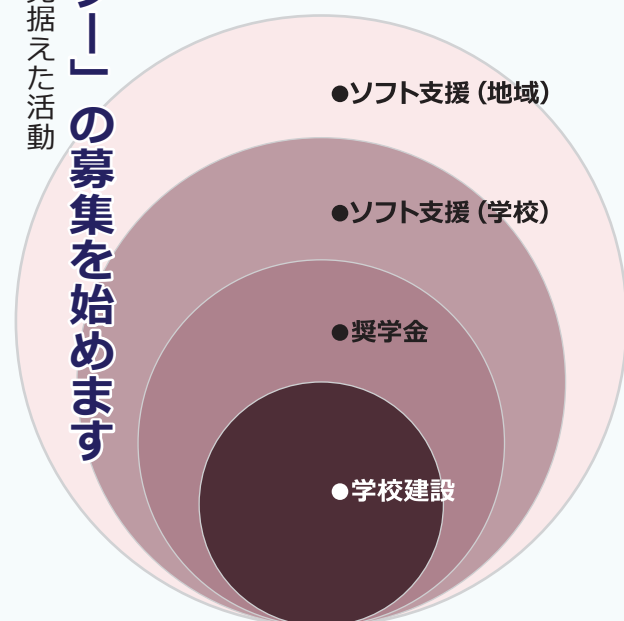
AEFAは支援者の方々のご寄付に支えられて学校建設や教室の増設等の建設プロジェクトを進めるとともに、その先にある課題を見据えた活動(図書館建設や読書啓蒙、人権や環境プログラム、奨学金、村の自立に向けた活動等)の拡大を目指しています。

新しく挑戦する教育プログラムは、成果が見えない段階でのスタートとなります。特定の支援者がつかない状態でも、プログラムの重要性や有効性を見極め、未来への先行投資として取り組む必要があります。また、近年激変する現地事情をしっかりと受けとめ、それぞれの少数民族の課題に応じた有意義なプロジェクトを提供していくために、現地NGOとの理念合わせや新しい教育プログラムの開発にも注力していかなければなりません。

このような未来への先行投資となるプロジェクトを積極的・継続的に進めるためのパートナーとして「AEFAマンスリーサポーター」の募集を始めます。

詳細は後日ご案内いたします。また、7月16日(日)に開催されるAEFAフォーラムでも紹介させていただく予定です。(※フォーラムについては同封のハガキをご覧ください。)

多くの方が、現地子どもたちに寄り添い、現地の未来につながる変化を共に喜ぶ仲間に加わってくださるよう願っています。



ソフト支援 ・就学前教育支援・子供を暴力から守る啓蒙活動 ・環境啓蒙活動 ・遺足 ・教員研修会(先生方のクロスビジット) ・農業プロジェクト(若者農家ネットワーク) ・学校運営費用(用途は限定せず) 	奨学金 ・小学生 ・高等教育(大学、職業訓練校) ・教師養成コース(教員養成短大)
学校建設 ・学校 ・井戸(浄水装置を含む) ・寮(学生寮) ・寮(教師寮) ・スポーツコート・村の集会所 ・大規模修繕 ・フォロアップとしての小規模修繕 	建設+ソフト支援 ・図書室+図書+読書習慣啓蒙教育(1年間) ・サッカーコート+サッカーチーム育成(1年間) ・実験室ハウス+科学技術教育支援(1年間)
教員の給与支援 無給で働くボランティア先生の給与支援 	

AEFA と現地 NGO のチャレンジ 現地で、いま起きていること

現地訪問が可能となった今、私たちAEFAは活動の本格的な加速に向けて現地状況の把握に努めています。プロジェクトが動き始めた地域もあれば、ウクライナ侵攻や世界情勢の影響を受けプロジェクトが思うように進まない地域もあります。現地の最新状況を正しく理解したうえで、それぞれの地域状況に応じた適切なプロジェクトを実施するとともに、新たな課題に対策を講じ、粘り強く、かつ、柔軟に行動していきます。各国の現状をご報告いたします。

ベトナムでは、2022年は政策の変化や規制増加により学校建設のための行政手続きが進まない状況でした。更に、2023年1月に副首相4名のうち2名が解任され、続いて国家主席が突然の辞任。反腐敗運動の高まりから生じた政治的混乱により、あらゆるところで行政手続きの遅れが発生しています。外資が絡むプロジェクトには特に反腐敗の矛先が向けられ、AEFAプロジェクトもなんらやましいところはないものの、学校等建設や現地訪問のための許認可に従来の倍以上時間がかかり、スケジュールに変更がでています。現地NGOによれば、いずれ状況は落ち着き、手続きも従来通りに戻ると見込んでいます。

一方、新型コロナウイルス感染が収束して建設需要が急増していることから、建設資材の価格や人件費の高騰が続き、AEFAプロジェクト予算の増加を招いています。このような状況の中でも現地NGOは費用の圧縮に努め、プロジェクト予算増加幅は必要最小限となっています。

スリランカでは、2022年の経済・エネルギー危機、物価高騰、政治的混乱によりプロジェクトを一時停止していました。今年2月、現地より情勢が落ち着いてきたとの連絡を受け、再開しています。2022年建設プロジェクトの3校のうち、「ウィーラヘラ小中学校の理科室・保健室整備プロジェクト」が完成しています。残る2校も、今年秋までには完成する見込みです。

現地パートナーのダヤシリ氏によれば、今も物価高で生活の厳しさは続いているですが、停電やガソリン不足は解消されているとのことです。

ラオスも2022年は通貨安、エネルギー危機、物資不足、インフレが続き、2023年第一四半期のインフレ率は前年同期比40.8%に達しました。AEFAプロジェクトの現場である農村部や山岳部では人々の生活が非常に厳しくなり、都市部との格差が深刻になっています。

ラオスは生活必需品をはじめ建設資材や機械や肥料、魚の稚魚、また多くの農産物を輸入に頼っており、それが物資不足とインフレが続く一因となっています。

2022年は建設資材不足と高騰で資材調達が出来ない・ガソリン不足によりAEFAの建設プロジェクトも影響を受けました。政府からのNGO活動への許認可にも時間がかかるようになってい



写真:CSO (マレーシア) の児童数は、3年前の2倍に増加。

ます。今春より順次動き始め、2022年の建設プロジェクトは2023年の夏までに完成を見込んでいます。

教育支援プロジェクトは大きな遅れはなく子どもたちとの活動を進めることができました。

マレーシアのセランゴール州にある、ミャンマーからの少数民族の難民の学校「Chin Student Organization (CSO)」では、2022年1月以降、比較的安定した学校運営ができています。近隣の国際学校やマレーシア人ボランティアによる支援も少しずつ戻り始め、運動会や創立18周年の記念行事も行いました。一方、ミャンマーでは依然として軍による民主派の市民への攻撃が続いており、クーデターから2年経った今でも多くの人々がマレーシアなどの近隣国に逃れています。そのため、CSOの生徒も増え続けており、AEFAが支援を開始した2020年7月当時に比べて約2倍になっています(CSOプチョン校の2023年6月現在の生徒数は140人)。この春、新たにCSOの教師となった若者2名は、最近までミャンマーでCDM(市民不服従運動)に参加していました。

タイでは、北部チェンマイ県山岳地帯で若者の自立を後押しする「農業プロジェクト」を実施していましたが(AEFAフレンド会報33号参照)、新型コロナウイルス感染拡大の移動制限により農産物を出荷できなかつたり、若手農家グループのための集会所・作業小屋の着工までに大変時間がかかりました。建設は、2022年秋に無事完了しています。

野焼きや森林火災によるチェンマイ周辺の大気汚染問題が、今春は特に深刻化し健康被害が出ました。環境や農作物、気候変動への影響も心配されます。

いま、AEFAプロジェクトに大きな影響を与えているのは、円安です。AEFAは、プロジェクト実施国のパートナーNGOにドルで送金しているため、従来通りのプロジェクトにより多くの資金が必要となっています。(※為替レート 2021年:110円前後→2022年:140円超え)

さまざまな課題はありますが、AEFAのパートナーである皆さまが現地の状況や直面する課題を理解くださり、私たちと同じ目線で現地の人々に寄り添ってくださることが大きな励みとなります。引き続きご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。



写真：交流会で本気の綱引き！近藤さん

ベトナムの地で、ともに「未来の礎」を

キムソン分校と大阪府立柏原東高校、交流の物語

これまでAEFAが建設してきた学校とご寄付いただく皆様のご縁はなんとも不思議なもので、同じことは一つ也没有せん。ここでお伝えするのは、ベトナムのキムソン分校と柏原東高校、通称“カシトン”の交流の物語です。

柏原東高校は2021年3月31日にその役割を終え44年の歴史を閉じました。卒業生は1万2千余人とのこと。誰にとっても、母校、特に高校というのは楽しいこと、つらいこと、甘酸っぱいこと、今はもう誰にも言えないこと・・・多感な時期の思い出が詰まった、かけがえのない母校です。卒業生の方々は、そんな大切な母校が無くなってしまふという厳しい現実と直面しました。

卒業生の会には、これまで集めた会費が残っていました。その会費を使ってモニュメントを作ろうか、記念品を配ろうか、それとも、みんなでパァツと飲んじゃおうか、いろいろ話し合ったそうですが、それより、我が母校の歴史を受け継いでくれる新しい学校を建ててはどうだろうという声があがり、AEFAにご連絡をいただきました。

「学校を建てる」というけど、費用や期間はどのくらいかかるのだろう。建てたあと、どんなことができるのだろう。建てたらそれっきりで忘れられちゃうんじゃないだろうか。いろいろ不安もあったようですが、私たちAEFAが取り組んできたことをお伝えし、いくつかの候補から、ここならうまくいきそうだと私たちが選んだ学校のご説明をさせていただき、それなら大丈夫そうだと現地訪問が決まりました。卒業生の会の世話役の一人でありカシトンの教員でもあった近田さんが、AEFAの谷川さん、菊岡さん、そして僕と現地に向かったのは2019年9月のことでした。

キムソン村までの長い車中、近田さんと僕はいろんな話をしま

した。カシトンへの思い、そして、新しい学校への期待・・・。深い思いが溢れるだけに近田さんの期待はふくらむばかりです。支援候補学校とご寄附いただく方の出会いは結婚のようなものかもしれません。会う前の期待が大きすぎると現実はキビシイ場合があります。最近はあるまない仲人？紹介者？合コンの主催者？の立場からすれば、近田さんの期待の大きさはホント不安要素でいっぱいでした(今だから書けることですが。笑)。現地には現地の事情もあつて、ご期待通りにはできないこともたくさんあるんですね・・・。

キムソン分校は、田んぼに囲まれた小さな村の小さな学校です。そこに響き渡る元気な子どもたちの歓声はホント強烈でした。小さな校庭で子どもたちと一緒に綱引きをしたり、ゲームをして遊ぶうちに、車中の心配は吹っ飛びました。この子たちの未来のために、という思いで臨めばどうにかなるさ、という感じでしょうか。こちらへんは、谷川さんに教えていただいたAEFAの原点の一つのように思います。

古い米倉庫を改装した教室は小さくて、子どもたちでいっぱい。窓の近くは明るいですが、日中でも窓から遠い奥のほうはかなり暗い教室でした。暗くて勉強にならないのもつらいし、明るいほうも暑くなっちゃういますから、窓際もつらいですね。

子どもたちと綱引きを三回やって、けっこうな筋肉痛になって臨んだのが、キムソン村の皆さんと学校の先生たちとの会議でした。カシトンの思いや新しい学校への願いと期待を伝え、閉じていく日本の学校と新しく生まれ変わるベトナムの学校の間で未来に向かって新たなつながりをどのように作ることができるのか、その具体的な内容を話し合います。

カシトンの皆さんのいちばんの願いは、カシトンの名前をどのような形でよいので継承してほしいというものでした。それはそんなにカンタンではないだろう、村や学校の皆さんたちはどう受けとめるのだろう、おそろおそろ通訳をして尋ねてみたところ…。

キムソン・カシトン、いいね。ぜひぜひ。と即答。おお。なんともうれしい瞬間でした。キムソン・カシトン、なんと語呂がいいです。ベトナム語でも日本語でもリズムがよいのがよかったのかもしれない。これもご縁なのだなと思います。

いつか、キムソン分校の卒業生が日本に来てくれることを楽しみにしていること、そして、その時は母校の後輩として受け入れたこと、学校を建てておしまいではなく、その後も長く交流を続けていくことも約束しました。

カシトンから校歌を贈りたいという申し出も快諾されました。もともと、キムソン分校には校歌がなかったので、カシトンのメロディを贈って、ベトナム語の歌詞をつけて、新しいキムソン・カシトン分校の校歌にしようというのです。そして、カシトン閉校式の2021年3月、開校式をいっしょにやろうね、とも。

ところが、ご存知のとおり2021年はコロナ禍のまっただなか。誰のせいでもありませんが、できないことばかり…。閉校式に合わせた開校式は、現地訪問できずオンラインでの参加という、なんとももどかしい交流になってしまいました。

2023年3月、待ちに待った、現地を訪問して交流できる日がやってきました。新しいキムソン・カシトン分校ができて三年経っていました。新しい学校に訪問したのは、卒業生の会の会長の山中さん、副会長の近藤さん、そして、近田さんです。僕も一緒にさせていただきました。

新しい学校の門には、しっかり、キムソン・カシトンの文字が入っています。いろんな学校を見てきましたが、ちょっと見たことがあります(今後も無理でしょう。笑)。

三年半ぶりの再会では、いっしょに校歌も歌いました。最初にカシトンの校歌を日本語で山中さん、近藤さん、近田さんの三人が歌います。「我ら今ここに集う…ともに開かん未来の礎…我らが高校柏原東」……ベトナムの空にカシトンの校歌が響きました。その後はベトナム語で新しい校歌を子どもたちが歌いま

す。言葉の意味はわかりませんが、キムソン・カシトンという言葉が聞こえてきます。いい年をしたオジサンたちの目には光るものがありました。正直いうと僕もちょっとウルっときました。カシトンは大阪の地で閉校したかもしれませんが、この地でたしかに継承されています。

交流会を終え、新しい教室(三年経ちましたが、とてもキレイに使われています)では、子どもたちに新しい学校ができてよかったことを聞きました。

少数民族出身の彼らは民族特有の母語と国全体の共通語である国語が異なるため、人前で話すのが苦手な子が多く、このときもなかなか声が出ませんでした。現地のパートナーNGOの代表であるアインさんが子どもたちをやさしくリラックスさせて話しやすい環境にしていき、一人の男の子が話し始めてからは、つぎつぎと声が出るようになりました。

そこで出てきた答えは「校庭が広くなって遊び場が増えたので、友達ができた。学校が楽しくて好きになった」「教室が明るくて、勉強が楽しい」「天井についているファン(扇風機)のおかげで風が回って快適。暑くてもだいじょうぶ」「教科書やノートを使って勉強するのが楽しい。よくわかる」「トイレがきれいで、たくさんあるので、うれしい」「教室の小さな本棚の本が好き」「花壇に咲く花のお世話が楽しい。ときどき風が吹くと花の匂いが教室まで届いてウキウキした気持ちになる」といったものでした。

子どもたちの声を聞きながら、ああ、そうだね、前の校庭狭かったよね、暗い教室だったね、天井のファンも気付かなかった、本棚できた、花壇のお花の匂い、ステキだねと、一つひとつの大切なことを教えてくれる子どもたちの目線、思いの確かさに、多くの気づきを得ました。

ややもすると、私たちは早く大きなインパクトを求めがちです。大きなインパクトを早くできると示したほうが説得もしやすいのかもしれませんが、しかし、私たちは谷川さんが創設して以来のAEFAの経験を通じて確信しています。絵空事で大きなお金を動かすよりも、確実な変化を草の根でしっかりと根付かせていく

写真右：(横断幕の前の写真)
後列左より1人おいて、山中さん、近藤さん、近田さん、亀井



ことがなにより大切なことを。子どもたちの一つひとつの言葉のとおり、小さくとも意義ある確実な変化こそ、未来を切り拓くのではないでしょうか。

キムソンとカシトンのこれからの交流についても、充実した話し合いができました。話し合いのあと、村の方々、そして、先生たちといっしょにご飯をいただきました。村のおもてなし、文字通りのご馳走です。言葉は通じませんが、なんども握手して、なんども乾杯しました。胸いっぱい、おなかもいっぱいになりました。そんな席で、カシトンの山中さんが真っ赤な顔をしながら、AEFAのおかげです、ほんとうにありがとう、と話しかけてくださいました。

卒業生の会のお金は卒業生一人ひとりの長年の積み重ねで、その思いがこもった同窓会費をどう使おうかほんとうに迷ったこと。ベトナムの学校に思いを継承するというが、お金で現地の方たち、子どもたちの気持ちを買うことにはなりはしないだろうかと自問自答してきたこと。悩みに悩んで、きっと、このお金は未来

につながると考えたから新しい学校に使ってもらうことにしたけど、それでも、今日ここに来るまで、迷いが無かったといえばウソになることも…。

でも、今日、キムソン・カシトンの門を見て、新しい校歌をいっしょに歌って、子どもたちといっしょの時を過ごして、先生や村の人たちの思いに触れ、そして、子どもたちのうれしい声を聞いて、自分たちはほんとうによいお金の使い方ができたと確信できた。一人ひとりの汗と涙がこもったお金だからこそ、意味ある使い方をしたかった。だから、ほんとうにありがとう、と仰っていただいたのでした。

こちらこそです。ありがとうございますと申し上げるのは私たちです。国境、言葉、そして、世代を越えて、小さくともかけがえのない大切な思いがつながる瞬間が私たちにとっていちばんうれしい時です。これからも、そんなうれしい瞬間に出会えるよう、がんばっていききたいと思います。

(亀井善太郎)

リレートーク Why AEFA?

浅田 一憲→→→

岩品 雅子

笹川平和財団研究員
元 JICA 専門家

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会、JICA 専門家を経て現職。ラオスに11年半居住し、基礎教育支援のプロジェクトの実施、評価、計画策定などを担当。著作に「内発的発展と教育—ノンフォーマル教育の意義」（『アジアの内発的発展』西川潤編、藤原書店）。



前列右から二人目が岩品さん

「マサコに会わせたい人がいるの！」ラオスのノンさん、ニヤイさんにそう言われてサラワンの彼女たちのオフィスで金子さんと一緒に夕食をいただいたのが、AEFAとの出会いでした。当時私はラオスで国際協力機構（JICA）の「コミュニティ・イニシアティブによる初等教育改善プロジェクト」を実施し、小学校教員や村教育開発委員会のメンバーへの研修などを行っていました。村人の教育に関する能力強化をできても、中には校舎がボロボロのところもあり、何とかならないものかと思っていたところ、AEFAの皆様のご協力をいただけて本当にありがたかったです。

サラワンの彼女たちとAEFAの皆さんの、現地コミュニティとしっかりコミュニケーションをとって下さるお仕事の仕方に、団体は異なっても同志だとずっと思っていました。

その後、ベトナムでの人身取引対策ホットライン運営強化プロジェクトに携わり、人身取引被害者の方々のお話を伺う中で、被害者の多くが、遠隔地に住む少数民族で中学・高校と教育を継続して受けることができなかった方が多いことがわかりました。学校に行けず村に留まり農業や家事を手伝う中で、「良い働き口があるよ」と勧められたり、携帯電話などに入ってくる情報に騙されてしまう…、そのような被害の状況がわかってきました。

AEFAが行っている遠隔地における教育機会の提供支援は、子どもたちをそのような被害から守り、子どもたちが自らの将来を選び取っていく力を身に着けるのに貢献すると感じています。

ラオスでもベトナムでも、近年、国内の格差はますます拡大しつつあるようです。農村遠隔地の少数民族の子どもたちへのAEFAさんの教育支援の活動がぜひこれからも継続されるとともに、現地とのコミュニケーションの強みを活かして、現地の子子どもたちが取り巻かれている世界と国内の変わりゆく状況を子どもたちに伝え、彼らの望む協力を共に編み出していただければと期待しています。



支援者を募集しています。詳細は事務局にお問い合わせください。

2023 年度 計画中プロジェクト



タップカイ分校

ベトナム
イエンバイ省

学校建設

2教室+トイレ+井戸

本校から7キロ離れた山間部の分校で、現在、187名が学んでいます。生徒数が増え、教室が不足しています。トイレも老朽化し、衛生状態はよくありません。



ヴァンフー小学校

ベトナム
トゥエンクアン省

レインボーライブラリー

図書館+読書啓蒙活動

児童数526名の地域の中心基幹校。教育の中心であるにもかかわらず、学校に図書室はなく、現在は保健室に本棚が置かれているのみ。読書活動を充実させたいと強い意欲をもっています。



バンヴェン分校

ベトナム
バクザン省

レインボーライブラリー

図書館+読書啓蒙活動

232名と多くの児童が学んでいます。授業のための学習環境は整備されていますが、児童数が多い同校に、子どもたちが本を読んだり創造的な読書活動ができるスペースはありません。



オスウィンナ 小学校

スリランカ
南部州

学校建設

2教室

1994年創立時より人口が増え、生徒数も増加。200人超の児童生徒が通うようになり教室数が不足しています。広い学校敷地の空いているスペースに、2教室の追加校舎を切望しています。



ランミヒタンナ 小中学校

スリランカ
南部州

学校改修

校舎床+屋根

ごく貧しい地域にありながら児童生徒の学習意欲は非常に高く、修了試験で高い成績を収めています。1990年築の本校舎の床と屋根が損傷、危険な状況で、改修と整備が求められています。



フアイラ小中学校

ラオス
サラワン県

キャンドルライツ ライブラリー

図書館+読書啓蒙活動

小学校と中学校が同じ敷地内にあり、図書館が出来れば、小中校の児童生徒が使うことができます。地域の教育の中心校で、子どもたちの学びの更なる充実を願っています。

教育支援プロジェクト

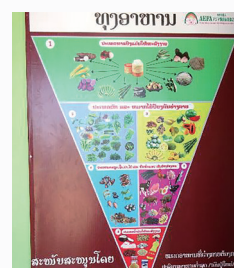
リトルシェフ（栄養改善プロジェクト）

ラオス
サラワン県



サラワン県の幼児・児童は、身長・体重の成長が全国平均に比べて不十分であることがわかりました（ACD調べ）。10歳未満の児童が乳幼児の世話をしていること、主食であるモチコメ中心の食生活で栄養バランスが偏ったり、経済的理由から他の栄養素を摂取できなかったり、栄養価を効果的に摂取する調理法を知らないことなどが理由として考えられています。

学校菜園と養魚池、基本的な栄養の知識を身につけ調理の仕方を学び、手洗いや清潔な食器を使うなど基本的な保健衛生について学ぶプロジェクトです。





学校建設プロジェクト

2023年6月現在



① モットдой分校



② ビンフー小学校



③ レインボーライブラリー クアントウレン小学校



④ ニュウ中学校



⑤ ファイラ小学校



⑥ ラック28小学校



⑦ マイバンマセル中高校



⑧ ナボーン中高校



⑨ ウィーラヘラ小中学校



⑩ ビエンカム小中校



⑪ ナンサイター小学校



⑫ イルコーウィタ小学校

国名	学校名 支援者（敬称略）	ひとこと
ベトナム	モットドイ分校（旧名：チョイモット分校） 横浜幸銀信用組合	タインホア省のプロジェクト。4教室校舎とトイレ棟を新設し、1-5年生まで全員が健康的で安全に学べるようになりました。5月には、支援者の皆様が訪問、子どもたちとの交流会を行いました。 写真①
	ビンフー小学校 アジアの子どもたちに学校をつくる議員の会	山間部にあり、湿気が多く冬は大変冷え込む地域。7か村の児童が学ぶ中心基幹校となるべく、中学校用地へ移転、新たに小学校新校舎が建設されました。2022年12月に支援者の皆様が訪問、贈呈式と交流会を行いました。 写真②
	レインボーライブラリー クアントウルン小 医療法人社団 ALBA	小学校にレインボーライブラリーを建設、1年間の読書習慣啓蒙活動を実施しています。2022年9月の贈呈式では、歯科医の本業を通じての社会貢献として歯磨き指導が行われました。 写真③
	ニュー中学校 校舎・匿名希望 井戸+水タンク・中村洋子	旧小学校校舎として使われていた、床も片側の壁もない雨漏りする建物が新校舎として整備されました。井戸+水タンクには浄水器もつけられ、安い値段で飲料水を買うことで、浄水フィルタを購入しています。 写真④
	ファイラ小学校 増設 エルセラーン1%クラブ	ファイラ小学校は、地域の本校です。校舎増設により、更に教育環境が整備されました。現在はリトルシェフ(子どもたちの栄養改善)プロジェクトも実施されています。写真⑤
ラオス	ラック28小学校 一家恵理	AEFA初となるラオス東北部シエンクアン県プロジェクト。新たな学校用地に村人たちの協力のもと、新校舎が完成。2023年3月には支援者が訪問して贈呈式が行われました。 写真⑥
	マイバンマセル中高校 集会室兼図書室 荒川商業高校同窓会桐門会、PTA、佐野容子	AEFAプロジェクトで校舎2棟・トイレ2棟・寮・スポーツコート・水設備を整備、地域の中心基幹校かつ郡のモデル校となっています。更なる活動と学びの充実のため、集会室兼図書室が完成しました。 写真⑦
	ナボーン中高校 図書館 エルセラーン1%クラブ	地域の中心基幹校で、遠方の村からの生徒も学びます。校舎&女子寮がAEFAプロジェクトで建設されました。図書館建設により、更に教育環境が整備されます。 写真⑧
スリランカ	ウィーラヘラ小中学校 理科室と保健室の整備 熱中小学校江丹別分校 小学校をつくろうボランティア部	海に近い地域特有の砂塵が室内に入り込み、学習環境に悪影響を及ぼしていました。特に理科室で実験器具やコンピューターを安心して使用することができませんでした。理科室を改修して砂塵が入り込まないように整備し、室内をパーテーションで仕切って念願の保健室も併設しました。 写真⑨
建設中	レインボーライブラリー ニンライ小/ルンカオ小/バンコン小 エルセラーン1%クラブ	小学校にレインボーライブラリーを建設、1年間の読書習慣啓蒙活動を実施します。読書を通じて、子どもたちは、視野を広げ、将来の夢を育み、可能性を広げることができます。
	クーヴァン分校 エルセラーン1%クラブ	タインホア省の山間部の学校です。2階建ての校舎があるものの、5年生は竹で作られた雨風が凄くない校舎で学んでいます。また、トイレは数が足りず、衛生環境は良くない状況です。
	キムソンカシトン分校 図書館 柏原東高等学校同窓会	柏原東高等学校(カシトン)の名前を学校名に引き継ぎ、新校舎建設に続いてカウンセリング室兼図書室施設を建設します。その施設を活用して、メンタルヘルスクアについての啓蒙活動を実施します。
	チョクチョン分校 匿名希望	ハノイ市から西北に154kmのイエンバイ省にある学校。イエンバイ省は河川、峡谷を挟んだ急こう配の山岳地系を持つ省で山間部には少数民族が居住する地域が散在します。教室数が不足する学校に2教室を新設、トタン造の仮設教員室と老朽化したトイレを建て替えるプロジェクトです。
	ビエンカム小中校 図書館 エルセラーン1%クラブ	小学校と中学校は同じ敷地内にあり、図書館は小中の児童生徒が使うことが出来ます。小・中両校ともAEFAプロジェクトで建設され、環境プロジェクトも実施、村の皆さんと長い付き合いのある学校です。 写真⑩
	ナンサイター小学校 特定非営利活動法人 国際協力NGO風の会	子どもたちの学びのために、メコン川を見晴らし、涼しい風が吹き渡る新しい学校土地を村として準備。2023年3月の着工後順調に建設が進んでいます。写真⑪
	ドンニャイ小中高校図書館 山田浩司	2007年度以来、小・中・高校、スポーツコート、集会所、環境プロジェクトと様々なプロジェクトで一緒にしてきた学校です。念願の図書館が整備されます。
	イルコーウィタ小学校 課外活動用小校舎 (株)やすらぎの部屋 シルバーアーチ基金	2021年にAEFAのプロジェクトで校舎の一棟を改修した学校です。先生の熱意と行動力が実を結び、今回は課外活動用の小校舎を新設することになりました。子どもたちの将来の選択肢や可能性を広げるため、英語を集中して学んだり、自主的なクラブ活動を行ったりするために使われます。 写真⑫
スリランカ	カワンティサプラ・マハー小中学校 一般寄附	行政による視察で「倒壊の危険あり」と認定された中学校校舎は傷みがひどく、壁が崩れかけ、床がひび割れ、屋根は雨漏りしています。経済危機により着工までに時間がかかりましたが、建設が始まっています。



2022年 5月24日 東京都公立小学校事務職員会総会記念講演(谷川・榊)	12月1日 ベトナム キエンティエツト小学校交流会(田中)
5月26日 ベトナム カオロイ分校 STEMプロジェクト活動クロージングセレモニーをオンラインで開催。日本の幼稚園もオンラインで参加、一緒に実験を行った。	12月7日 ベトナム イエンニン分校交流会
6月9日 寄附プラットフォーム「シンカブル」に登録。「バースデードネーション」で「AEFA18周年・18歳のバースデードネーションで ラオス山岳部の学校へ「水」を贈りたい」に挑戦した。	12月16日 AEFA理事会
6月15日 AEFA創立18周年を迎える	12月25~28日 ベトナム出張
6月23日 AEFA理事会	26日 ベトナム ビンフー小学校贈呈式(谷川・亀井・田中)
8月5日 AEFA理事会	2023年 1月18日 エルセラーン社「ベトナムの集い」開催 ベトナムのレインボーライブラリーとエルセラーン社とAEFAをZoomで繋ぎ、交流を行った。
8月20日 エルセラーン社フェスティバルにて、ベトナム ヴインロイ小学校のレインボーライブラリー開館式が開催された。(谷川)	2月3日 文京区第一中学校出前授業(金子)
9月14日~22日 ベトナム出張(田中・金子)	2月7日 AEFA理事会
15日 カム川小学校&レインボーライブラリー贈呈式	2月8日 長野市立大岡小学校出前授業(金子)
19日 クアントゥルン小学校レインボーライブラリー贈呈式	2月23日 AEFA総会 2022年度事業報告・決算、2023年度予算・事業計画が承認された。AEFA理事会
9月30日 ベトナム クーマン分校開校式をオンラインで開催。ご支援者と子どもたちとの交流を行った。	2月24日~3月6日 ラオス出張(金子)
10月 「テラエナジーでんき」寄附つき電気の寄附先団体として登録	3月7日~11日 ベトナム出張(亀井・田中)
10月4日 スリランカのパートナー ダヤシリさん来所	3月10日 キムソンガントン分校交流会
10月7日 AEFA理事会	3月20日 ラオス ラック28小学校贈呈式(金子)
11月5日 AEFA臨時総会	3月22日 ベトナム トゥルントゥルック小学校レインボーライブラリー読書啓蒙活動クロージングセレモニーをオンラインで開催した。
11月19日 ベトナムのパートナーNGO CSD代表 アインさん来所	3月23日 スリランカのパートナー ダヤシリさん来所
11月30日~12月2日 ベトナム出張(田中)	5月22日~25日 ベトナム出張(田中)
	5月23日 タイアン分校交流会
	5月24日 モットディ分校交流会

3年ぶりの現地への訪問も始まり、今年は本格的に活動再開です。

コロナの間に竣工し、初めて会うこととなったラオスの村の方々は、お役人はじめ外部の色々な人が集まって緊張からか終始固い表情でした。集会の後半、ご質問や言っておきたいことがあれば、と水を向けたところ「会ったこともない日本のみなさんがなぜ私たちの村の健康や教育のことを色々にしてくれるのですか?」と聞かれました。実際のところ、多くの候補地の中からプロジェクトがきまるときには、ご縁という言葉がしっくりくる気がします。なんてお伝えしたらいいものやら…と逡巡。同行していたノンさんが「日本人はラオスが大好きで、第2の故郷のように思っているから」と代わって表現してくれたところ、一気にその場の空気がほっとけて、柔らかくなった気がしました。その後、先生からは今後学校をどうしていきたいかという計画や、子供たちにどう育ってほしいか…などお話が活発になりまして、学校プロジェクトを通して人と人が繋が



村のみなさんの笑顔



afterword

金子 恵美

っていく…というのは、ひとつにはこういう瞬間のことなのかと、印象に残ったひとときでした。

また、久しぶりに会う現地のみなさん、目に見えるような大きい変化はなくても、何かが“変わった”かな?と感ずることがありました。誰でも何でも変わる

ことは当たり前ですが、何というか、その肌感覚みたいなものは、やっぱり対面で会って感じて感じるのかと思いました。

“起きていること”をどう感じ、捉え、認知・反応していくか…心のありようが大事なのだと思います。AEFAでは「教育支援プロジェクト」で、学校で学ぶ教科だけでなく、心を育てる活動のお手伝いをしています。(例:CRP環境プロジェクト、レインボーライブラリー図書館…)

もう大人の自分も、教育支援プロジェクトから学ぶことがあります。プロジェクトを通じて心を育てたい…と思っています。

個人と非営利団体を繋ぐプラットフォームサービス
Syncable (シンカブル) に登録しました



Syncable

<https://syncable.biz/>

Q 「アジア教育友好協会」で検索

当サイト経由で AEFA 会費のカード決済ができます

AEFA Web & SNS

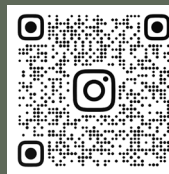
Web Site



Facebook



Instagram



私たちは各国のパートナーNGOと
手を携えて活動しています。

ベトナム: Research & Communication Centre for Sustainable Development (CSD)
ラオス: Association for Community Development (ACD)
タイ: Raks Thai Foundation (CARE Thailand)
スリランカ: Rotary Club of Colombo (RCC)

